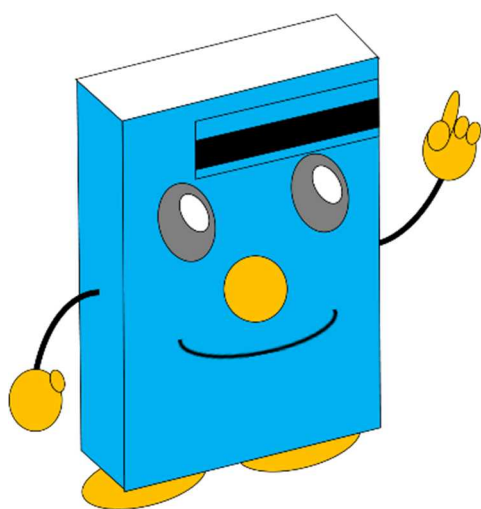


特別支援学校, 特別支援学級
知的障害教育のための

みやぎ授業づくり プラス ガイド+

「育成を目指す資質・能力」を
児童生徒の生活に結び付ける学習活動



宮城県総合教育センター

令和4年度 専門研究 特別支援教育研究グループ



はじめに

学習指導要領が改訂され、「生きる力」がより具体化されました。教育課程全体を通して「育成を目指す資質・能力」が「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の三つの柱に整理されました。各教科等の目標及び内容も、この三つの柱に基づいて整理されました。

【参考】特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 総則編(幼稚園・小学部・中学部)第1編第1章第2節1②



授業づくりの考え方は様々あります。学習指導要領の趣旨を踏まえた授業づくりの考え方の一つを、令和3年度長期研修 専門研究成果物「みやぎ授業づくりガイド」と令和4年度長期研修 専門研究成果物「みやぎ授業づくりガイド+」で示しました。

二つの成果物を活用することで、知的障害のある児童生徒の資質・能力を育成する授業づくりに取り組むことができます。

令和3年度

【みやぎ授業づくりガイド】

主な内容



- 学習指導要領の趣旨による授業づくり
 - ・「目標」と「評価規準」の設定方法の提案
 - ・主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善の提案
- 知的障害教育の知識
 - ・「教科別の指導」「各教科等を合わせた指導」の授業づくりの考え方
 - ・学習指導案の作り方、年間指導計画の例などの参考資料

令和4年度

【みやぎ授業づくりガイド+^{プラス}】

主な内容



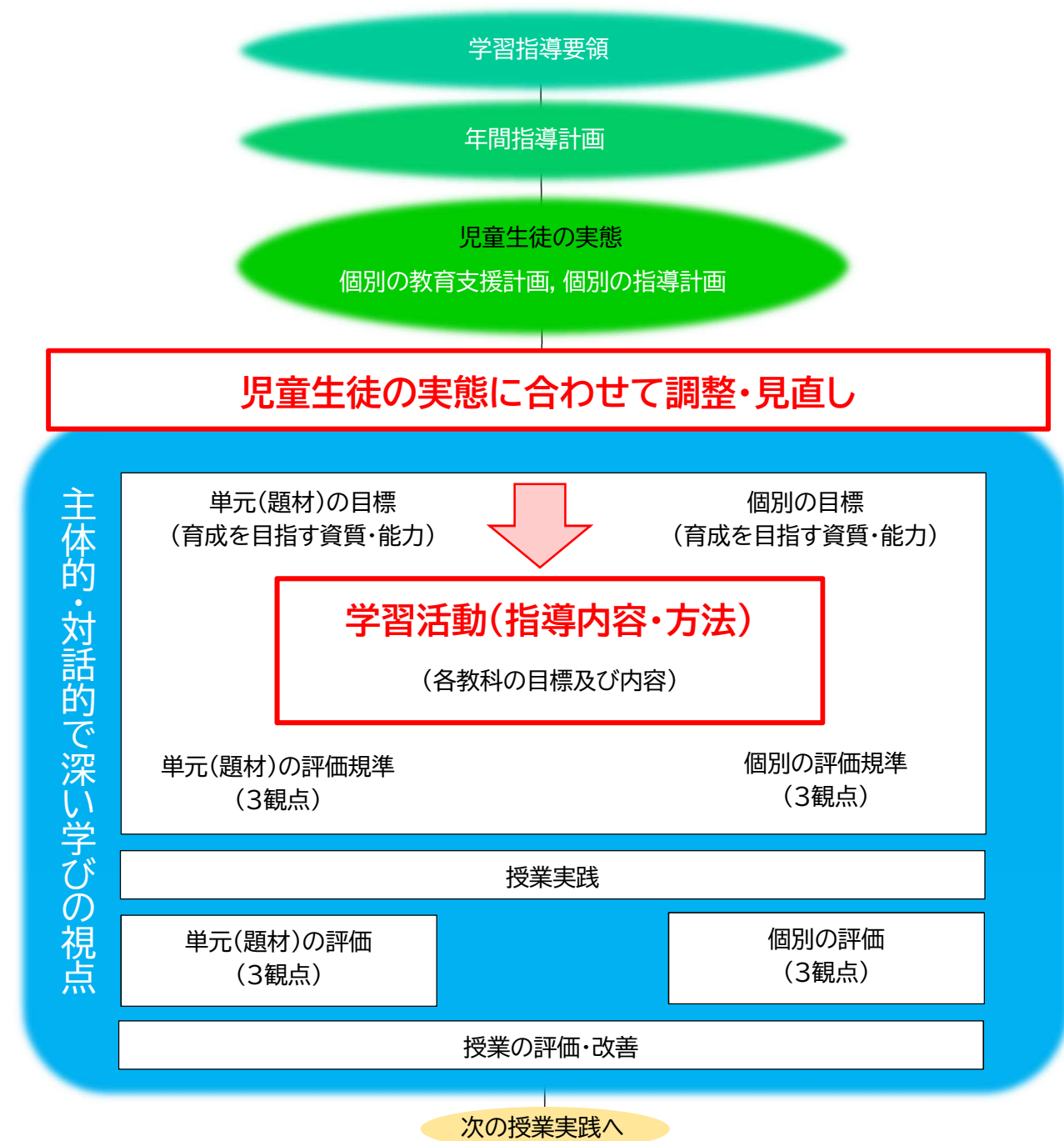
- 「育成を目指す資質・能力」を児童生徒の生活に結び付ける学習活動(指導内容・方法)を提案
- 学習活動を設定する際に活用するツールを提案
 - 「場・人・ものマトリックス」
 - 「学習活動(指導内容・方法)設定シート」

下の図は、「みやぎ授業づくりガイド」で示している授業の構成図です。「みやぎ授業づくりガイド+」で説明を加えている箇所を、赤枠で示しています。

年間指導計画や個別の指導計画等を基に、児童生徒の実態に合わせて学習活動(指導内容・方法)の調整・見直しを図っていく際に、「みやぎ授業づくりガイド+」を活用することができます。

なお、学習活動(指導内容・方法)は、一部を除き、学習活動と表記します。

授業の構成図



赤枠以外の「目標」と「評価規準」の設定や「主体的・対話的で深い学びの視点」による授業改善等については、「みやぎ授業づくりガイド」を参照してください。



「育成を目指す資質・能力」を踏まえた学習活動を
どのように設定したらよいのか困っています。



美田先生

「各教科の目標及び内容」の段階があまり変わら
ない児童生徒について、どのような点に留意して学
習活動を設定したらよいのでしょうか。



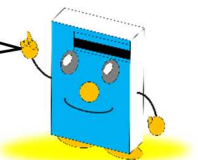
園子先生

児童生徒が学んだことを生かすことができるよう
な学習活動をもっと工夫したいと考えています。



宮城先生

上記のようなことで困っていませんか？「育成を目指す資質・能力」を児童生徒の
生活に結び付ける学習活動を設定することが、悩みの解決の一助となります。



まなぶん

「みやぎ授業づくりガイド+」の活用方法

【全編使いたい場合】

- ・タブレット端末にダウンロードして使う。
- ・PDFを印刷して冊子にして使う。

【用途に合わせて使いたい場合】

Web上で必要なページをダウンロードしたり、印刷したりして使う。

- ・児童生徒の生活を捉えたい → 「場・人・ものマトリックス」
- ・学習活動を設定したい → 「学習活動（指導内容・方法）設定シート」
- ・校内研修をしたい → 「校内研修用スライド」



【目次】

第1章 理論・ツール編

「育成を目指す資質・能力」を児童生徒の生活に結び付ける学習活動

生活に結び付ける学習活動とは？	1-1
児童生徒の生活とキャリア発達段階	1-2
児童生徒の生活と「場・人・もの」	1-3
学習活動の設定イメージ	1-3
小学部・中学部・高等部の学習活動の設定イメージ	1-4
	1-5
ツールを活用した学習活動の設定	1-6

学習活動を設定する際に活用するツール

「場・人・ものマトリックス」について	1-7
「場・人・ものマトリックス」の見方	1-8
場・人・ものマトリックス 生活の場	1-9
場・人・ものマトリックス 関わる人	1-10
場・人・ものマトリックス 扱うもの	1-11
「学習活動(指導内容・方法)設定シート」について	1-12
学習活動(指導内容・方法)設定シート	1-13

第2章 設定編

「育成を目指す資質・能力」を児童生徒の生活に結び付ける学習活動の設定

授業の構成図	2-1
学習活動の設定Step1～5・参照	2-2
学習活動の設定とツールの活用イメージ	2-2
Step 1 年間指導計画等の確認	2-3
Step 2 「学んだことを生かしている姿」の設定	2-4
Step 3 各教科の目標及び内容の調整・見直し	2-5
Step 4 個別の学習活動の設定	2-6
Step 5 集団の学習活動の設定	2-7
参照 個別の学習における目標と評価規準の設定	2-8
参照 集団の学習における目標と評価規準の設定	2-9
参照 調整・見直しの留意点(各教科の目標及び内容)	2-10
	2-11

第3章 活用例編

活用例①～各教科等を合わせた指導(生活単元学習) ある特別支援学校中学部の例～

調整・見直し前の年間指導計画	3-1
生徒の実態	3-2
「学習活動(指導内容・方法)設定シート」記入例	3-3
調整・見直し後の指導計画	3-4

活用例②～教科別の指導(数学) ある高等学園の例～

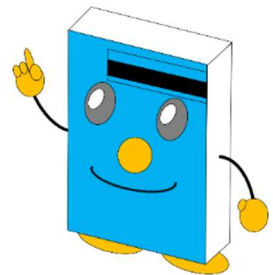
調整・見直し前の年間指導計画	3-5
生徒の実態	3-6
「学習活動(指導内容・方法)設定シート」記入例	3-7
調整・見直し後の指導計画	3-8

第1章

理論・ツール編

第1章では、「育成を目指す資質・能力」を児童生徒の生活に結び付ける学習活動の設定について提案しています。

また、学習活動の考え方について説明し、活用できるツールを提案します。



「育成を目指す資質・能力」を 児童生徒の生活に結び付ける学習活動

生活に結び付ける学習活動とは？

知的障害のある児童生徒は、学習によって得た知識や技能が断片的になりやすく、実際の生活場面の中で生かすことが難しいという学習上の特性があります。そのため、実際の生活場面に即しながら、継続的、段階的に指導することが重要です。

また、「知的障害のある児童生徒の教育的対応」として、「生活に結び付いた具体的な活動を学習活動の中心に据え、実際的な状況下で指導する」ことが挙げられています。

【参考】特別支援学校学習指導要領解説 各教科等編(小学部・中学部) 第4章第2節1, 2
特別支援学校学習指導要領解説 知的障害教科等編(上)(高等部) 第5章第2節1, 2



そこで、「育成を目指す資質・能力」と「児童生徒の生活」を考えながら学習活動を設定していくことが大切であると考え、

「育成を目指す資質・能力」を 児童生徒の生活に結び付ける学習活動の設定

について提案します。

「生活に結び付ける」とは、学習内容を児童生徒の生活に沿うようにする、生かされるようにするということです。生活に役立つ指導事項を選択することや、知識・技能の習得・活用を目指すことだけではありません。学習活動を通して、芸術に触れて情感豊かな心を育てることやスポーツや音楽等に、生涯にわたって親しむ態度を育成することも大切です。そのため、幅広い体験をすることや感性を働かせること、主体的に取り組むこと、コミュニケーションを楽しむこと、他者と協働すること、自己を表現する喜びを感じることも重要な学習活動です。様々な学習経験を積み重ねることが児童生徒の人間的成長に関わり、現在及び将来の生活を豊かにしていくことにつながっていくと考えています。

児童生徒の生活とキャリア発達段階

キャリア発達段階とは

社会との相互関係を保ちつつ自分らしい生き方を展望し、実現していく過程の中に、生活年齢に応じて変化していく特徴や課題があると考えます。**特徴や課題を含むキャリア発達の変化の段階**をキャリア発達段階とし、知的障害のある児童生徒においては学部(学校)の各段階に応じていると捉えました。

児童生徒の生活を考えるときに、知的障害の状態や特性、学習状況や経験、本人の興味や関心、家庭環境など様々な要素があり、個によって大きく異なります。

しかし、障害の有無や軽重に関わらず、学部(学校)の段階ごとのキャリア発達段階があり、時期的な特徴と課題があります。国立特別支援教育総合研究所が作成した「知的障害のある児童生徒の『キャリアプランニング・マトリックス(試案)』」は、職業生活のみならず、家庭生活や地域生活を踏まえたライフキャリアの視点を取り入れられています。「キャリア発達の段階」及び「キャリア発達段階の解説と発達課題」を参考にすることで、学部(学校)の段階に応じた児童生徒の生活を捉えやすくなります。

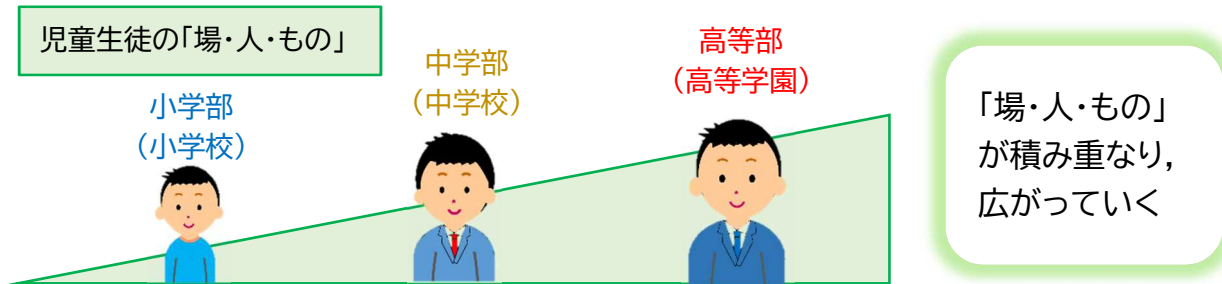
キャリア発達の段階、キャリア発達段階の解説と発達課題

	小学部(小学校)	中学部(中学校)	高等部(高等学園)
キャリア発達の段階	職業及び生活に関わる基礎的な能力獲得の時期	職業及び生活に関わる基礎的な能力を土台に、それらを統合して働くことに応用する能力獲得の時期	職業及び卒業後の家庭生活に必要な能力を実際に働く生活を想定して具体的に適用するための能力獲得の時期
キャリア発達段階の解説と発達課題	未分化であるが、職業及び家庭・地域生活に関する基礎的な能力の習得と意欲を育て、後の柔軟性に必要な統合する能力習得の始まるの時期。キャリア発達の視点からは、学校及び生活に関連する諸活動の全てにおいて、遊びから目的が明確な活動へ、扱われる素材が身近なものから地域にある素材へ、援助を受けながらの活動から自主的・自立的活動へと発展しながら全人的発達を遂げる時期。働くことに対する夢や意欲を育てる。	小学部段階で積み上げてきた基礎的な能力を、職場(働くこと)や生活の場において、変化に対応する力として般化できるようにしていく時期。キャリア発達の視点からは、職業生活に必要な自己及び他者理解を深め、実際の職業体験を通じて自らの適性に気づき、やりがいや充実感の体感を通して、職業の意義、価値を知ることや学ぶ。自己の判断による進路選択を経験する時期。	中学部段階で培ってきた能力を土台に、実際に企業等で働くことを前提にした継続的な職業体験を通して、職業関連知識・技術を得るとともに、職業選択、及び移行準備の時期。キャリア発達の視点からは、自らの適性ややりがいなどに基づいた意思決定、働くことの知識・技術の獲得と必要な態度の形成、必要な支援を適切に求め、指示・助言を理解し実行する力、職業生活に必要な習慣形成、経済生活に必要な知識と余暇の活用等を図る時期。

【参考】知的障害のある児童生徒の「キャリアプランニング・マトリックス(試案)」国立特別支援教育総合研究所

児童生徒の生活と「場・人・もの」

障害の状態に関わらず、学部(学校)の段階、すなわちキャリア発達段階が上がるにつれて、児童生徒の「生活の場」「関わる人」「扱うもの」は、積み重なり広がっていきます。(以後、一部を除き、「場・人・もの」と表記します。)**「場・人・もの」の積み重なりや広がりを考慮することで、学部(学校)の段階に応じた児童生徒の生活を捉えやすくなります。**学習活動を設定するときに、「場」「人」は場面設定に、「もの」は教材・教具の工夫に生かすことができます。

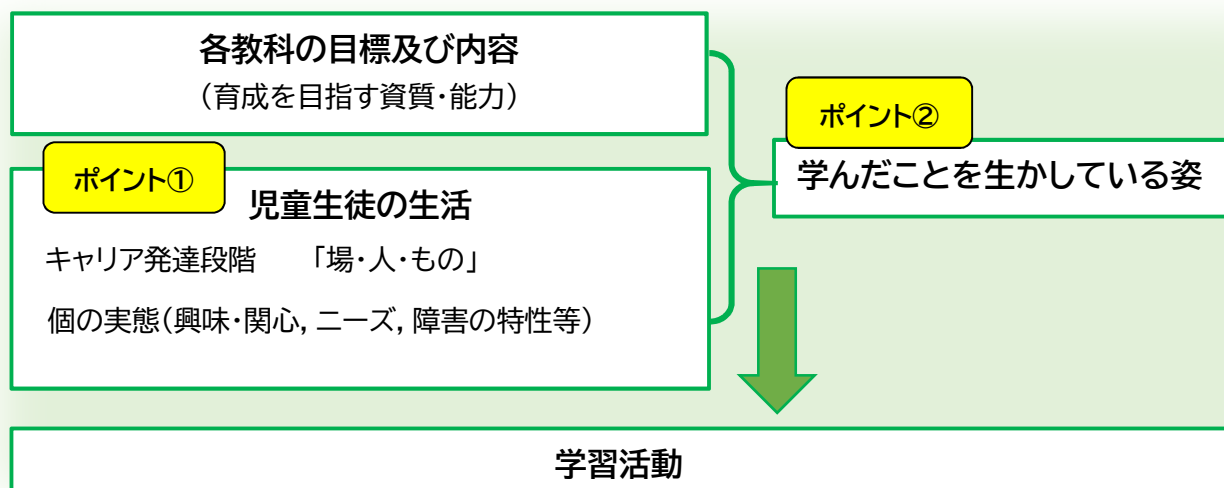


学習活動の設定イメージ

下の図は、「育成を目指す資質・能力」を児童生徒の生活に結び付ける学習活動の設定イメージです。「育成を目指す資質・能力」を児童生徒の生活を結び付ける学習活動を設定するための**ポイント**は、以下の2点です。

- ①児童生徒の生活を捉えること
- ②「学んだことを生かしている姿」を考えること

児童生徒の生活は、個の実態と、障害の有無や軽重に関わらずに共通するキャリア発達段階、「場・人・もの」の積み重ねや広がりから捉えていきます。「学んだことを生かしている姿」は、各教科の目標及び内容(育成を目指す資質・能力)と児童生徒の生活を合わせて考えます。そして、これらを考慮して学習活動を設定します。

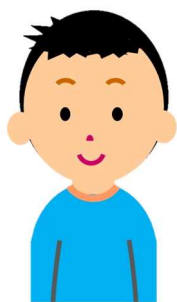


小学部・中学部・高等部の学習活動の設定イメージ

知的障害教育では、発達が緩やかなため、学年が上がっても下学年の段階の各教科の目標及び内容を学習する場合があります。

特別支援学校に在籍する発達が緩やかな名取さんを例に挙げてみましょう。名取さんは、算数や数学の授業における各教科の目標及び内容は、小学部2段階です。しかし、名取さんの学部・段階に応じたキャリア発達段階があり、「場・人・もの」は積み重なり広がっていきます。

算数・数学の目標及び内容が小学部2段階のままの名取さんが、小学部・中学部・高等部と進学した場合の、学習活動を例示します。



名取さん

特別支援学校在籍

【各教科の目標及び内容】算数 A 数と計算 小学部2段階

	知識及び技能	思考力, 判断力, 表現力等	学びに向かう力, 人間性等
内容	ア(ア)㊦ものの集まりや数詞と対応して数字が分かること。	ア(イ)㊦数詞と数字, ものとの関係に着目し, 数の数え方や数の大きさの比べ方, 表し方について考え, それらを学習や生活で興味を持って生かすこと。	(2段階の目標) ウ数量に関心を持ち, 算数で学んだことの楽しさやよさを感じながら興味を持って学ぶ態度を養う。

【参考】特別支援学校学習指導要領解説 各教科等編(小学部・中学部)第4章第4節第3



小学部

各教科の目標及び内容(育成を目指す資質・能力)

算数 A 数と計算 小学部2段階

ポイント①

名取さんの生活

キャリア発達段階を考慮した「場・人・もの」

小学部 場:食堂, 教室 人:友達, 教師 もの:牛乳, ストロー

名取さんの実態

- ・当番活動に意欲的である。
- ・3までの数を数えることができる。

ポイント②

学んだことを生かしている姿

- ・食堂で, 学級の友達と教師の人数分の牛乳とストローを数えて教室まで運ぶ。
- ・教室で, 人数分の牛乳とストローを正確に配る。

給食当番として, 牛乳とストローを人数分配ることができた。

学習活動

教科別の指導「算数」

- ・空の牛乳パック5個を, 数唱しながらかごに入れる。
- ・5までの数を数唱しながら, ストローを仕切りのあるケースに入れる。



小学部の名取さん

中学部

各教科の目標及び内容(育成を目指す資質・能力)

算数 A 数と計算 小学部2段階

ポイント①

名取さんの生活

キャリア発達段階を考慮した「場・人・もの」

中学部 場:家庭の台所 人:家族 もの:調理器具, 食器

名取さんの実態

- ・家族思い。
- ・家庭でできることを増やし, 家族の手伝いをしたいと思っている。

ポイント②

学んだことを生かしている姿

- ・家庭で, 食事の準備を手伝う。
- ・調理器具を用意したり, 家族の食器を並べたりする。

家庭で, 食事の準備の手伝いができた。

学習活動

各教科等を合わせた指導「生活単元学習, (職業・家庭, 数学)」

- ・調理室で, グループ数に応じて必要な調理器具の個数を, 作業表を確認しながら準備する。
- ・グループの人数分の食器を準備する。



中学部の名取さん

高等部

各教科の目標及び内容(育成を目指す資質・能力)

算数 A 数と計算 小学部2段階

ポイント①

名取さんの生活

キャリア発達段階を考慮した「場・人・もの」

高等部 場:職場実習先 人:職場の人 もの:商品

名取さんの実態

- ・今度, 職場実習先に行く。指示されたとおりに, 仕事ができるか不安を感じている。

ポイント②

学んだことを生かしている姿

- ・職場実習先で, 職場の人と協力して, 指示されたとおりの個数の商品を袋詰めする仕事を行う。

職場実習先で, 商品の個数を指示されたとおりに袋詰めすることができた。

学習活動

各教科等を合わせた指導「作業学習・食品製造班(数学, 家庭)」

- ・作業を行う中で, コーヒーシュガーを10本まで数え, 向きをそろえて袋詰めをする。

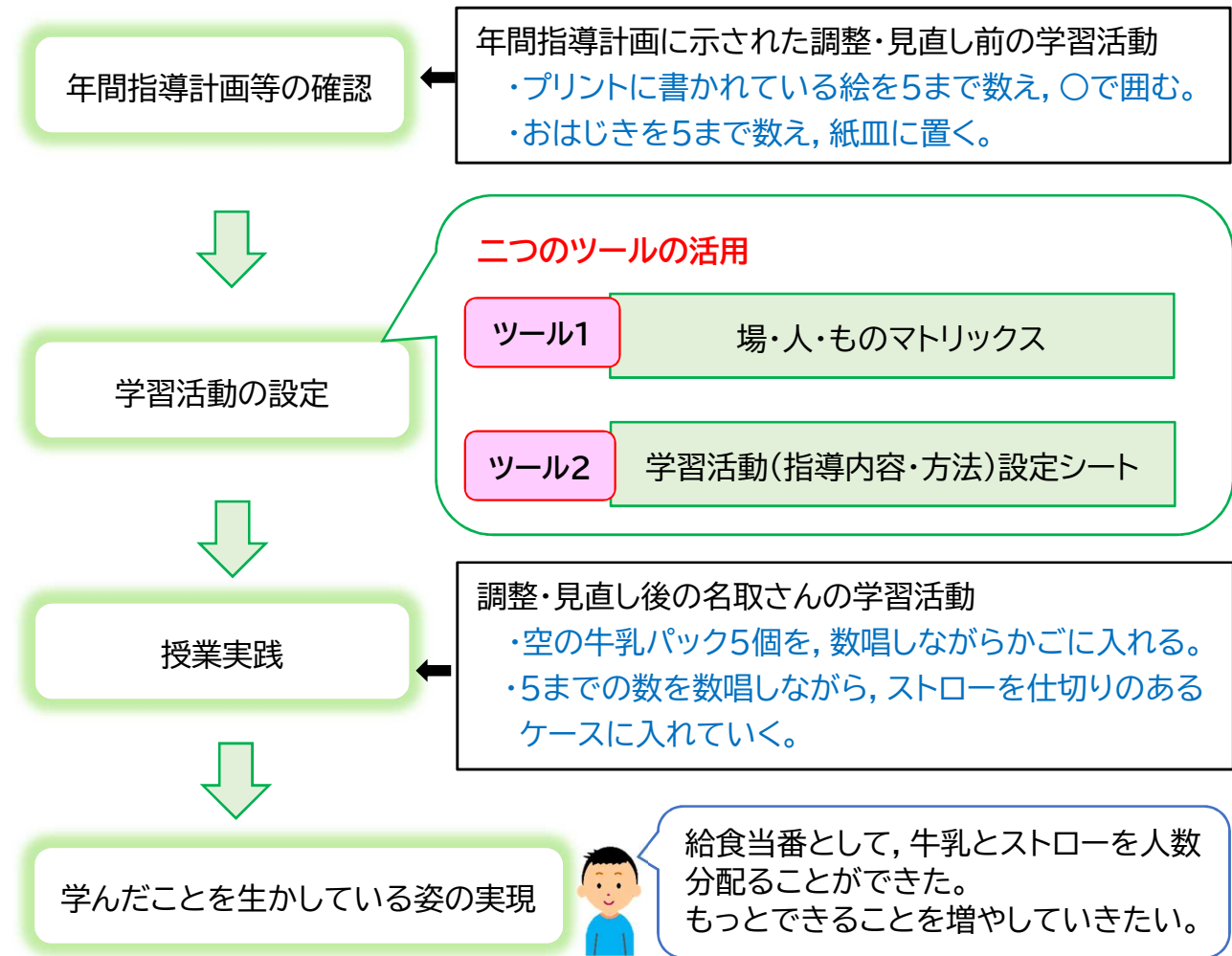


高等部の名取さん

ツールを活用した学習活動の設定

年間指導計画や個別の指導計画等を基に、調整・見直しを図って学習活動を設定する際に活用することができるツールを二つ作成しました。

「場・人・ものマトリックス」と「学習活動(指導内容・方法)設定シート」です。



ツールの活用を通してできること

- ☐ 児童生徒の生活を捉えること (**ポイント①** と対応)
- ☐ 「学んだことを生かしている姿」を考えること (**ポイント②** と対応)
- ☐ 育成を目指す資質・能力(各教科の目標及び内容)を明確にすること

「育成を目指す資質・能力」を生活に結び付ける学習活動を設定することができます。

学習活動を設定する際に活用するツール

「場・人・ものマトリックス」について

知的障害のある児童生徒の生活の変化において、共通して積み重なり広がっていく「場・人・もの」とキャリア発達段階を組み合わせで示したものが、「場・人・ものマトリックス」です。「場・人・ものマトリックス」を活用することで、キャリア発達段階と「場・人・もの」の積み重ねや広がりを考慮して、生活を捉えた学習活動につなげることができます。

「学んだことを生かしている姿」を考えると、場面設定、教材・教具を工夫するとき
に参考にすることができます。

児童生徒の生活を捉え、学部(学校)の段階に応じた学習活動を設定することが大切です。

ツール1

「場・人・ものマトリックス」

生活の
場

関わる人

(P1-9, 10, 11 参照)

[illegible][illegible]

扱う
もの

[illegible]

学習活動を設定するときに、「場」・「人」は場面設定に、「もの」は教材・教具の工夫に生かすことができます。

指導内容は、各教科の目標及び内容を参照して、児童生徒の発達段階に応じたものを選択します。

「場・人・ものマトリックス」の見方

「場・人・ものマトリックス」の見方を説明します。

生活場面のカテゴリー

キャリア発達段階を基に、「職業」「経済」「余暇」「地域」「家庭」の五つに分類しています。

見出し

生活場面のカテゴリーごとに、時期的な特徴などを見出しにしています。

「場・人・もの」が積み重なり、広がっていく

知的障害のある児童生徒のための

場・人・ものマトリックス

生活の場

「場・人・もの」マトリックスは、知的障害のある児童生徒の生活において、共通する「場・人・もの」を積み重ねて示しています。具体的な事物は、学部（キャリア発達段階）を考慮して例示しています。児童生徒の実態、学校や地域の状況で取り入れられないものや、他学部（学校）の事物を取り入れる場合もあります。キャリア発達段階と「場・人・もの」を学習活動と結びつけてみましょう。

学部 キャリア 発達段階	小学部(小学校)	中学部(中学校)	高等部(高等学園)
職業	職業及び生活に関わる基礎的な能力獲得の時期	職業及び生活に関わる基礎的な能力を土台として働くことに応用する能力獲得の時期	職業及び卒業後の家庭生活に必要な能力を実際に働く生活を想定して具体的に適用するための能力獲得の時期
経済	手伝いや役割、仕事について知るために関わる場 学級、家庭、学校、近くの店や道路 など	作業や進路に関わる場 作業室、職場見学先、生産の現場や販売の場所 など	職場実習、就労に関わる場 公共職業安定所、実習先や就労先、就労支援施設、納入先、面談や打合せの場所、資格習得の検定場所 など
余暇	買い物に関わる場 近所の店、飲食店 など	消費生活に関わる場 販売会場、目的に応じた店 など	経済生活に関わる場 金融機関、消費生活センター、インターネット店舗、実習先の近くの店舗 など
地域	遊びに関わる場 自宅、公園、習い事の場、放課後等デイサービス、公共施設(児童館、図書館、体育館)、友達の家 など	興味・関心や適性に応じて関わる場 趣味を楽しむ場所(コンサート会場、スポーツ観戦場、試合会場、イベント会場)、部活動の活動場所 など	余暇を有効に過ごすために関わる場 地域のサークル活動場所、余暇施設、観光先、旅行先 など
家庭	身近な地域で関わる場 居住地の近隣(家の周り、自然、通学路、駅、病院、お祭り会場)、友達の家 など	地域参加や安全で関わる場 公共施設、地域の避難場所、警察署、ボランティア先 など	よりよい地域生活、福祉に関わる場 居住地域の施設(集会所、投票所、福祉関係機関、相談支援事業所、高齢者施設)、文化遺産 など
家庭	家庭生活を営む上で関わる場 家の内外(台所、トイレ、浴室、寝室、玄関、庭、ベランダ、共有スペース、駐車場)、親戚の家 など		

【参考】知的障害のある児童生徒の「キャリアプランニングマトリックス(試案)」国立特別支援教育総合研究所

「場・人・もの」の具体的な事物

具体的な事物は、学部（キャリア発達段階）を考慮して例示しています。児童生徒の実態、学校や地域の状況で取り入れられないものや、他学部（学校）の事物を取り入れる場合もあります。キャリア発達段階を念頭に置きながら調整することが大切です。

特別支援学校学習指導要領解説各教科等編(小・中・高)の各教科の目標及び内容は、生活年齢を基盤として段階が構成されています。こうした段階も踏まえて、見出しや具体的な事物の配置を考えました。

「場・人・ものマトリックス」は、「場・人・もの」の積み重ねや広がりの一例です。各学校で、地域や学校の実情に合わせてアレンジし、ご活用ください。



「場・人・もの」
が積み重なり、
広がっていく知的障害のある
児童生徒のための

場・人・ものマトリックス

「場・人・ものマトリックス」は、知的障害のある児童生徒の生活において、共通する「場・人・もの」の積み重ねや広がりをキャリア発達段階と組み合わせて示しています。具体的な事物は、学部(キャリア発達段階)を考慮して例示しています。児童生徒の実態、学校や地域の実情で取り入れられないもの、他学部(学校)のものを取り入れる場合もあります。キャリア発達段階と「場・人・もの」を考慮して、児童生徒の生活を捉え、学部(学校)に応じた学習活動を設定しましょう。

学部	小学部(小学校)	中学部(中学校)	高等部(高等学園)
キャリア 発達の段階	職業及び生活に関わる基礎的な能力獲得の時期	職業及び生活に関わる基礎的な能力を土台に、それらを統合して働くことに応用する能力獲得の時期	職業及び卒業後の家庭生活に必要な能力を実際に働く生活を想定して具体的に適用するための能力獲得の時期
学習活動の設定では場面設定の工夫へ	職業	作業や進路に関わる場	職場実習、就労に関わる場
		手伝いや役割、仕事について知るために関わる場	
		学級、家庭、学校、近くの店や道路 など	公共職業安定所、実習先や就労先、就労支援施設、納入先、面談や打合せの場所、資格習得の検定場所 など
	経済	消費生活に関わる場	経済生活に関わる場
		近所の店、飲食店 など	金融機関、消費生活センター、インターネット店舗、実習先の近くの店舗 など
	余暇	興味・関心や適性に応じて関わる場	余暇を有効に過ごすために関わる場
		遊びに関わる場	
	地域	地域参加や安全で関わる場	よりよい地域生活、福祉に関わる場
		身近な地域で関わる場	
	家庭	家庭生活を営む上で関わる場	
		家の内外(台所、トイレ、洗面所、居間、浴室、寝室、玄関、庭、ベランダ、共有スペース、駐車場)、親戚の家 など	居住地域の施設(集会所、投票所、福祉関係機関、相談支援事業所、高齢者施設)、文化遺産 など

【参考】知的障害のある児童生徒の「キャリアプランニングマトリックス(試案)」国立特別支援教育総合研究所

「場・人・もの」
が積み重なり、
広がっていく小学部
(小学校)中学部
(中学校)高等部
(高等学園)知的障害のある
児童生徒のための

場・人・ものマトリックス

関わる人

「場・人・ものマトリックス」は、知的障害のある児童生徒の生活において、共通する「場・人・もの」の積み重ねや広がりをキャリア発達段階と組み合わせ示しています。具体的な事物は、学部(キャリア発達段階)を考慮して例示しています。児童生徒の実態、学校や地域の実情で取り入れられないもの、他学部(学校)のものを取り入れる場合もあります。キャリア発達段階と「場・人・もの」を考慮して、児童生徒の生活を捉え、学部(学校)に応じた学習活動を設定しましょう。

学部	小学部(小学校)	中学部(中学校)	高等部(高等学園)
キャリア 発達の段階	職業及び生活に関わる基礎的な能力獲得の時期	職業及び生活に関わる基礎的な能力を土台に、それらを統合して働くことに応用する能力獲得の時期	職業及び卒業後の家庭生活に必要な能力を実際に働く生活を想定して具体的に適用するための能力獲得の時期
学習活動の設定では場面設定の工夫へ	職業	作業や進路に関わる人	
		職場実習, 就労に関わる人	
		手伝いや役割, 仕事について知るために関わる人	
	経済	家族, 友達, 学校内の教師, 働く人 など	作業学習の担当教師や仲間, 職場見学先の担当者, 働いている卒業生, 販売相手, 客, 生産者 など
		消費生活に関わる人	
		経済生活に関わる人	
	余暇	店員 など	職場実習先の担当者, 一緒に働く人, 納入先の人, 就労に関する支援者, 進路担当者 など
		余暇を有効に過ごすために関わる人	
		遊びに関わる人	
	地域	家族, 友達, 教師, 習い事や放課後等デイサービスで会う人(友達, 指導者, 職員) など	共通の趣味を持つ友達, 趣味で訪れる場にいる人, 部活動の人, SNSを介して関わる人 など
		地域参加や安全で関わる人	
		よりよい地域生活, 福祉に関わる人	
家庭	身近な地域で関わる人	居住地の近隣の人(隣近所, 子ども会), 医師, 日常生活に関する支援者, 交流先の友達 など	公共施設の職員, 学校の近隣の人, 地域の活動で一緒に活動する人(町内会), ボランティアで関わる人 など
		家庭生活を営む上で関わる人	
	家族, 養育者, 親戚 など	居住地域の異年齢の人(役場職員, 相談支援員) など	

【参考】知的障害のある児童生徒の「キャリアプランニングマトリックス(試案)」国立特別支援教育総合研究所

「場・人・もの」
が積み重なり、
広がっていく小学部
(小学校)中学部
(中学校)高等部
(高等学園)知的障害のある
児童生徒のための

場・人・ものマトリックス

扱う もの

「場・人・ものマトリックス」は、知的障害のある児童生徒の生活において、共通する「場・人・もの」の積み重ねや広がりをキャリア発達段階と組み合わせ示しています。具体的な事物は、学部(キャリア発達段階)を考慮して例示しています。児童生徒の実態、学校や地域の実情で取り入れられないもの、他学部(学校)のものを取り入れる場合もあります。キャリア発達段階と「場・人・もの」を考慮して、児童生徒の生活を捉え、学部(学校)に応じた学習活動を設定しましょう。

学部	小学部(小学校)	中学部(中学校)	高等部(高等学園)
キャリア 発達の段階	職業及び生活に関わる基礎的な能力獲得の時期	職業及び生活に関わる基礎的な能力を土台に、それらを統合して働くことに応用する能力獲得の時期	職業及び卒業後の家庭生活に必要な能力を実際に働く生活を想定して具体的に適用するための能力獲得の時期
学習活動の設定では教材・教具の工夫へ	職業	職場実習、就労に関わるもの	
		作業や進路に関わるもの	
	手伝いや役割、仕事について知るために関わるもの		
	手伝いや当番で使う物(掃除用具、配膳物、配布物)など	指示書、作業日誌、作業服、納品書、請求書、作業製品、スケジュール帳、進路に関するパンフレット など	求人票、履歴書、給与明細、タイムカード、メモ帳、メール、実習や専門教科で扱う製品 実習の持ち物 など
	経済	経済生活に関わるもの	
		消費生活に関わるもの	
	買い物に関わるもの		
	お金、レシート、財布 など	小遣い帳、食品表示、プリペイドカード、計算機、広告、エコバッグ など	通帳、クレジットカード など
	余暇	余暇を有効に過ごすために関わるもの	
		興味・関心や適性に応じて関わるもの	
	遊びに関わるもの		
	玩具、ボール、絵本、図鑑、ぬいぐるみ、習い事で使う物(スポーツ用品、楽器) など	趣味や部活動で使う物、SNS、雑誌 など	レシピ、旅行のパンフレット、様々なサイトやアプリケーションソフトウェア、小説、伝統工芸品、美術・芸術作品 など
	地域	地域参加や安全で関わるもの	
		よりよい地域生活、福祉に関わるもの	
	身近な地域で関わるもの		
	自動車、信号、横断歩道、切符、回覧板、掲示板、ポスター、病院にある物、友達の家のある物 など	公共施設にある物、ICカード、公共物、地域の物(祭りの道具、防災用品、ハザードマップ) など	障害者手帳、時刻表や経路探索の案内掲示やアプリケーションソフトウェア、ヘルプカード など
	家庭	家庭生活を営む上で関わるもの	
	自分や家族の持ち物(お皿、箸、歯ブラシ、上着、帽子、手袋、運動着) など	頻繁に目にする物や使用する物(時計、スマートフォン、調理器具、電子レンジ、食材)場面に応じた服 など	運転免許証、説明書、契約書、証明書、受検(験)票、洗濯表示、TPOに合わせた服、健康管理に関するもの など

【参考】知的障害のある児童生徒の「キャリアプランニングマトリックス(試案)」国立特別支援教育総合研究所

「学習活動(指導内容・方法)設定シート」について

二つのポイント(児童生徒の生活を捉えることと、児童生徒が「学んだことを生かしている姿」を考えること)を踏まえて学習活動を設定するときに活用できるツールが、「学習活動(指導内容・方法)設定シート」です。年間指導計画や個別の指導計画等を基に、調整・見直しをしながら学習活動を設定することができます。学習活動を設定した後は、単元計画等の指導計画の立案につなげることができます。

年間指導計画、個別の指導計画等の確認

ツール2 「学習活動(指導内容・方法)設定シート」

シートの上部に個別に設定した学習活動、シートの下部に学級や学年など集団で設定した学習活動を記入します。

指導体制を検討しながら、児童生徒一人一人が十分に学べる学習活動を設定していきます。初めから個別の学習をすることが決まっている場合には、シートの上部のみを使用することも可能です。

習熟度や発達段階に応じたグループごとに、児童生徒の個別の学習活動を設定する欄を活用することもできます。

単元の学習活動だけではなく、本時の学習活動を考えるときにも活用できます。

学習活動(指導内容・方法)設定シート

宮城県総合教育センター 特別支援教育研究グループ

【指導の形態】		【単元(題材)名】		【時期】
【指導の期間】		【学級・学年・学期】		
氏名	【各教科の目標及び内容】 【育成を目指す資質・能力】	【学んだことを生かしている姿】	【関・人・もの】	【学習活動】 (指導内容・方法)
個別に設定	【各教科の目標及び内容】 【育成を目指す資質・能力】	【学んだことを生かしている姿】	【関・人・もの】	【学習活動】 (指導内容・方法)
※個別の学習活動を設定し、一人一人が十分に学べる学習活動を行います。集団として学習可能なものを検討し、指導体制(一斉指導、グループ指導、個別指導)や時間を設定します。				
【主な学習活動】(指導内容・方法)		【指導体制】	【時期】	
集団で設定				

シートを活用した学習活動の設定

第2章 設定編

シートの活用例や記入例

第3章 活用例編



この後、単元計画等の指導計画を立案します。
「みやぎ授業づくりガイド」第2章2-47「単元構想シート」や学校ごとに使用している略案等の様式を用いることができます。



学習活動(指導内容・方法)設定シート

【指導の形態】		【単元(題材)名】		【時数】	
【指導の期間】		【学部・学年・学級】			
個別に設定	氏名	【各教科の目標及び内容】 (育成を目指す資質・能力)	【学んだことを生かしている姿】	【場・人・もの】	【学習活動】 (指導内容・方法)
	グループでも可	学習指導要領を基に、教科や内容のまとまり、段階などを記入します。	年間指導計画に示された各教科の目標及び内容や、「場・人・もの」の積み重ねや広がりから、児童生徒が学んだことを生かしている姿を記入します。	「場・人・ものマトリックス」を参考に、「場・人・もの」を具体的に考えます。全てを記入する必要は、ありません。	「場・人」を場面設定、「もの」を教材・教具と考えます。資質・能力を育成し、「学んだことを生かしている姿」につながる学習活動を記入します。

※個別の学習活動を基に、一人一人が十分に学べる学習活動を考えます。集団として実現可能なものか検討し、指導体制(一斉指導,グループ指導,個別指導)や時数を設定します。

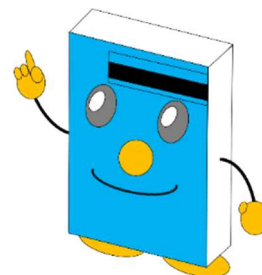
集団で設定	【主な学習活動】(指導内容・方法)	【指導体制】	【時数】

第2章

設定編

第2章では、「育成を目指す資質・能力」を児童生徒の生活に結び付ける学習活動の設定方法をStepごとに説明しています。

また、**参照**として、児童生徒の実態に応じた学習活動の調整・見直しの留意点や目標・評価規準の設定についても示しています。



「育成を目指す資質・能力」を 児童生徒の生活に結び付ける学習活動の設定

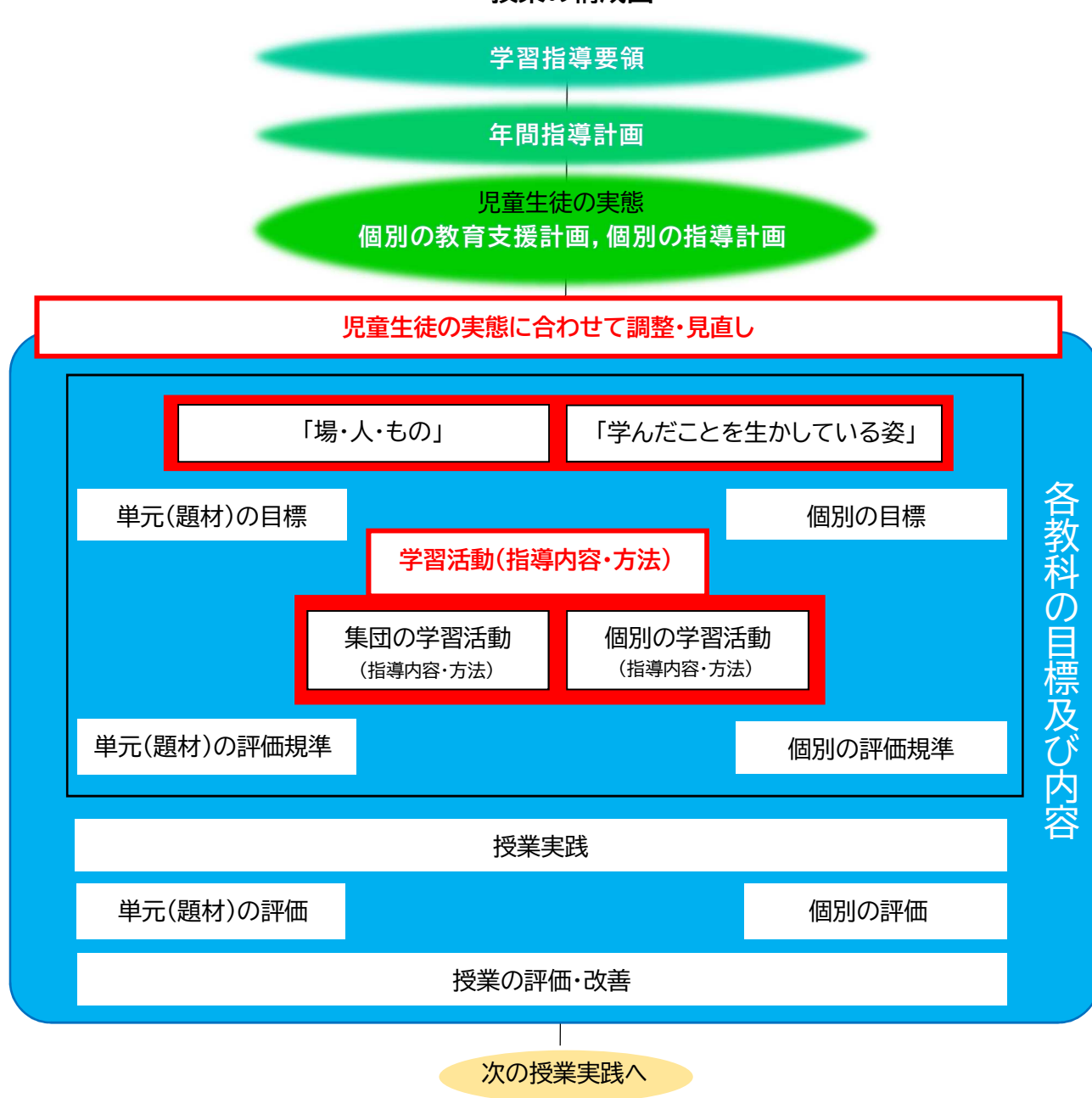
授業の構成図

下の図は、「育成を目指す資質・能力」を児童生徒の生活に結び付ける学習活動の設定を表した授業の構成図です。

年間指導計画や個別の指導計画等を基に、児童生徒の実態に合わせて学習活動の調整・見直しをしていきます。その際、【単元(題材)の目標】や【評価規準】などの事項はいずれとも相互に関わり合います。これらの事項に順序性はありません。

便宜上、五つのStepに分けて、次ページから説明していきます。

授業の構成図



学習活動の設定Step1～5・参照

Step 1 年間指導計画等の確認

Step 2 「学んだことを生かしている姿」の設定

Step 3 各教科の目標及び内容を調整・見直し

Step 4 個別の学習活動の設定

Step 5 集団の学習活動の設定

参照

目標、評価規準の設定、調整・見直しの留意点を示しています。

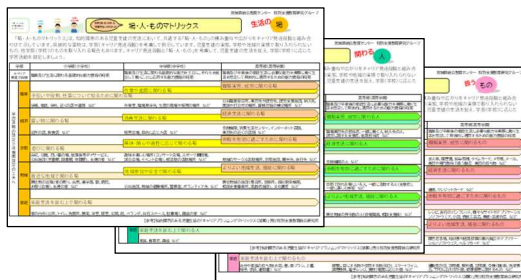
次ページから、
「学習活動(指導内容・方法)設定シート」を使用していきます。

児童生徒の習熟度や発達段階に応じたグループ学習で、学習活動を設定することもできます。

学習活動の設定とツール活用イメージ

ツール1 場・人・もののマトリックス

ツール2 学習活動(指導内容・方法)設定シート



「場・人・もののマトリックス」(P1-9, 10, 11 参照)



「学習活動(指導内容・方法)設定シート」(P1-13 参照)

二つのツールを活用して学習活動を調整・見直しをします。

調整・見直し前の年間指導計画

調整・見直し後の指導計画



年間指導計画(P3-1 参照)



「学習活動(指導内容・方法)設定シート」(P3-3 参照)

調整・見直し



指導計画例(P3-4 参照)

「育成を目指す資質・能力」を
児童生徒の生活に結び付ける学習活動が設定されます。

Step 2 「学んだことを生かしている姿」の設定

「学んだことを生かしている姿」を具体的に考えていきます。

児童生徒が、単元(題材)で学んだことをどのように生かしていくのか、「どこで(場)」
「誰と(人)」「何を使って(もの)」「何をするのか」を考えます。その際に「場・人・ものマトリックス」を参考にすることができます。「何をするのか」は、各教科の目標
及び内容に基づき記入します。必ずしも、【場・人・もの】を全て記入する必要はありません。

各教科の目標
及び内容
(職業・家庭)

(例)

「目的に応じた店で(場) 支援者と(人) エコバックを持って(もの) 買物をする。」

Step 2 「学んだことを生かしている姿」の設定

【学んだことを生かしている姿】を具体的に
考え記入しましょう。一緒に【場・人・
もの】も考えます。その際、「場・人・も
のマトリックス」が参考になります。

学習活動(指導内容・方法)設定シート

【指導の形態】	【単元(題材)名】	【時期】
【指導の目的】	【学習・指導・学習】	
【指導の目標】	【学んだことを生かしている姿】	【場・人・もの】
【指導の内容・方法】	【指導の内容・方法】	【指導の内容・方法】

※指導の目標は、単元の目標に基づき設定します。指導の目標は、単元の目標に基づき設定します。指導の目標は、単元の目標に基づき設定します。

氏名	【学んだことを生かしている姿】	【場・人・もの】
A 	- 目的に応じた店で、家族(支援者)と買物する。 - 商品やお釣の受け渡しができる。 - 店員と簡単なやり取りをする。 - エコバックを持参して買物をする。	場: 目的に応じた店 人: 店員、家族、支援者、友達 もの: 紙幣・硬貨、財布、かご、 レシート、エコバック

Step 4 個別の学習活動の設定

個別の学習活動を設定します。学習活動はStep 2で記入した【学んだことを生かしている姿】【場・人・もの】と、Step 3で調整・見直しをした【各教科の目標及び内容】（育成を目指す資質・能力）を参考に考えます。「場・人」を授業の場面設定に、「もの」を教材・教具につなげることもできます。そうすることで、【各教科の目標及び内容】（育成を目指す資質・能力）と児童生徒の生活を結び付ける学習活動とすることができます。

Step 4 個別の学習活動の設定

 個別の【学習活動】を記入しましょう。



Step 3 で記入。

Step 2 で記入。

氏名	【各教科の目標及び内容】 （育成を目指す資質・能力）	【学んだことを生かしている姿】	【場・人・もの】
A 	・職業・家庭（家庭分野）C消費生活・環境ア（ア） （中学部1段階） ・国語A聞くこと・話すことエ （小学部2段階）	・目的に応じた店で、家族（支援者）と買物する。 ・商品やお釣の受け渡しができる。 ・店員と簡単なやり取りをする。 ・エコバックを持参して買物に行く。	場：目的に応じた店 人：店員、家族、支援者、友達 もの：紙幣・硬貨、財布、かご、レシート、エコバック

※【学んだことを生かしている姿】【各教科の目標及び内容】を参考に【学習活動】を考えます。

氏名	【学習活動】（指導内容・方法）
A 	・教師と一緒に買物の一連の流れを、別教室に設置した仮想店舗でシミュレーションする。 ・本物の紙幣や硬貨の受け渡しをする。 ・「これください」「お願いします」「ありがとうございます」等、店員との簡単な受け答えの練習をする。 ・購入した商品をエコバックに入れる。

（実際に授業で扱う【場・人・もの】例）

	Aさんの 生活の【場・人・もの】	授業での場面設定、教材・教具
「場」	目的に応じた店	別教室に設置した仮想店舗
「人」	店員、家族、支援者	店員役の教師、支援する教師
「もの」	エコバック	エコバック

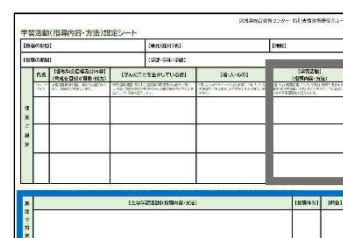
Step 5 集団の学習活動の設定

集団の学習活動を設定します。Step 4で設定した個別の【学習活動】をできるだけ全員分取り入れて集団の学習活動を考えると、全員が十分に学べる単位となります。一斉での学習が難しいときには、一斉指導、個別指導、グループ指導等の指導体制について検討します。

Step 5 集団の学習活動の設定

 【主な学習活動】【指導体制】【時数】を記入しましょう。

氏名	【学習活動】(指導内容・方法)
 A	・教師と一緒に買物の一連の流れを、別教室に設置した仮想店舗でシミュレーションする。 ・本物の紙幣や硬貨の受け渡しをする。 ・「これください」「お願いします」「ありがとうございます」等、店員との簡単な受け答えの練習をする。 ・購入した商品をエコバックに入れる。
 B	・必要な商品を選び、自分で購入する。 ・買物に必要な物を自分で準備する。 ・店員に伝わりやすいように、視線や適切な声の大きさ、速さで話す練習をする。
 C	・商品の選択や扱い方について知る。 ・店員に伝わりやすいように、間の取り方や表現を工夫する練習をする。 ・タブレット端末の電卓機能を使い、予算内で買い物ができる学習をする。(プリペイドカードを知る) ・袋の有料化に伴うエコバック等について学習する。



※個別の学習活動をできるだけ全員分取り入れて、全員が十分に学べる活動とします。

	【主な学習活動】(指導内容・方法)	【指導体制】	【時数】
集団で設定	1. オリエンテーション ・学習の目的及び内容について知る。 ・袋の有料化に伴うエコバックの活用等について学習する。	一斉指導 一斉指導	1
	2. 買物練習① ・別教室に設置した仮想店舗で買物の流れを確認する。 ・個別の目標に応じた買物の仕方を確認、練習する。	一斉指導 個別指導	1
	買物練習② ・個別の課題に応じた学習活動を行う。 ・それぞれの練習成果を発表する。	個別指導 一斉指導	1
	3. 買物(当日) ・学校の近隣の商業施設へ行き、買物をする。	一斉指導	3
	4. 振り返り ・授業を振り返り、学習の成果を発表する。	一斉指導	1

参照

個別の学習における目標と評価規準の設定

Step 2, Step 3を踏まえて【学んだことを生かしている姿】から、調整・見直しをした各教科の目標及び内容を踏まえて目標と評価規準を設定します。目標と評価規準の設定方法については「みやぎ授業づくりガイド」で示していますので、ご覧ください。



<http://www.edu-c.pref.miyagi.jp/midori/tokushi/jyugyoudukuri/>

「各教科等を合わせた指導」の場合、単元（題材）の目標が具体的にになれば、評価規準が目標と同じ内容になります。単元（題材）の目標を、更に具体的にした評価規準を設定するという考え方もあります。

【参考】「みやぎ授業づくりガイド」第2章2-20

個別の目標と評価規準



Aさんの単元の目標

- ・買物学習を通して、金銭の必要性に気付くとともに、教師に援助を求めながら、買物に必要な言葉を理解して受け答えをする。〔知識及び技能〕
- ・買物に関わる人とのやり取りを通して、相手に注目したり挨拶したり、簡単な台詞等で表現できる。〔思考力、判断力、表現力等〕
- ・買物学習で学んだことを、気持ちを落ち着かせて生活や学習に活用しようとする。
「学びに向かう力、人間性等」

Aさんの単元の評価規準

- ・買物学習を通して、金銭の必要性に気付くとともに、教師に援助を求めながら、買物に必要な言葉を理解して受け答えをしている。（知識・技能）
- ・買物に関わる人とのやり取りを通して、相手に注目したり挨拶したり、簡単な台詞等で表現している。（思考・判断・表現）
- ・買物学習で学んだこと生かし、気持ちを落ち着かせて生活や学習に活用しようとしている。（主体的に学習に取り組む態度）

参照

集団の学習における目標と評価規準の設定

多くの児童生徒に対応できる目標を、三つの柱に沿って設定します。集団の平均になりそうな段階の指導内容を基に考えると、様々な段階の児童生徒に対応しやすくなります。評価規準は、単元（題材）の最後にどのような姿が見られるのかを想像して三つの観点で設定します。

目標と評価規準の設定方法については、「みやぎ授業づくりガイド」をご覧ください。

目標と評価規準

単元の目標

- ・買物学習を通して、買物の一連の流れや商品の選び方等を理解して買物ができる。
〔知識及び技能〕
- ・買物に関わる人に伝わるように表現を工夫することができる。〔思考力、判断力、表現力等〕
- ・買物学習に見通しを持って取り組み、学んだことを学習や買物当日に活用しようとする。
「学びに向かう力、人間性等」

単元の評価規準

- ・買物学習を通して、買物の一連の流れや商品の選び方等を理解して買物している。
（知識・技能）
- ・買物に関わる人に伝わるように表現を工夫している。（思考・判断・表現）
- ・買物学習に見通しを持って取り組み、学んだことを学習や買物当日に活用しようとしている。
（主体的に学習に取り組む態度）

参照 調整・見直しの留意点（各教科の目標及び内容）

児童生徒の実態とは、知的障害の状態、興味・関心、生活年齢、学習状況や経験等です。
各教科の目標及び内容を児童生徒の実態に応じて調整・見直しをするときには、以下の事項に留意してください。

各教科の目標及び内容の段階

○知的障害のある児童生徒は、同一学年であっても知的機能の発達に個人差が大きく、学力や学習状況が異なります。そのため、特別支援学校学習指導要領の各教科の目標及び内容は学年別ではなく、段階を設けて示されています。

小学部			中学部		高等部	
1段階	2段階	3段階	1段階	2段階	1段階	2段階

【参考】特別支援学校学習指導要領解説 各教科等編(小学部・中学部) 第4章第1節5
特別支援学校学習指導要領解説 知的障害者教科等編(上)(高等部) 第2編第2部 第5章第1節5
みやぎ授業づくりガイド第1章1-6, 1-7



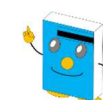
特別支援学校(知的障害)における教育課程

○障害の状態により特に必要がある場合

- ・小学部・中学部は、幼稚部教育要領に示す各領域のねらい及び内容の一部を取り入れることができる。
- ・高等部の各教科の目標及び内容の一部を、当該各教科に相当する中学部又は小学部の各教科の目標及び内容に関する事項の一部によって替えることができる。

○小学部の児童のうち小学部3段階に示す各教科又は外国語活動の内容を習得し目標を達成している者、また、中学校の生徒のうち中学部の2段階に示す各教科の内容を習得し目標を達成している者については、児童生徒が就学する学部に対応する学校段階までの小学校学習指導要領又は中学校学習指導要領における各教科等の目標及び内容の一部を取り入れることができる。

【参考】特別支援学校 幼稚部教育要領 小学部・中学部学習指導要領 第1章第8節1(2)(4)(6)
特別支援学校 高等部学習指導要領 第1章第8款1(2)
みやぎ授業づくりガイド第1章1-3, 1-5



特別支援学級(知的障害)における教育課程

○特別支援学級において特別の教育課程を編成する場合

・各教科の目標や内容を下学年の教科の目標や内容に替えたり, 各教科を, 知的障害者である児童生徒に対する教育を行う特別支援学校の各教科に替えたりする。

【参考】小学校学習指導要領 第1章第4の2(1)イ(イ)
中学校学習指導要領 第1章第4の2(1)イ(イ)
みやぎ授業づくりガイド第1章1-4



指導計画作成上の配慮事項

○指導内容の不必要な重複を避けたり, 重要な指導内容が欠落したりしないように配慮する。

○系統的, 発展的な指導が進められるように指導内容を具体的に組織, 配列する。

○指導内容が広がりすぎて, 焦点が定まらず十分な成果が上がらなかったり, 児童に過重になったりすることのないように留意する。

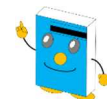
【参考】特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 総則編(幼稚園・小学部・中学部)第3編第2章第3節



指導の形態

○特別支援学校の小学部, 中学部又は高等部においては, 知的障害者である児童若しくは生徒又は複数の種類の障害を併せ有する児童若しくは生徒を教育する場合において特に必要があるときは, 各教科, 特別の教科である道徳, 外国語活動, 特別活動及び自立活動の全部又は一部について, 合わせて授業を行うことができる。

【参考】学校教育法施行規則 第130条第2項
「みやぎ授業づくりガイド」第1章1-8

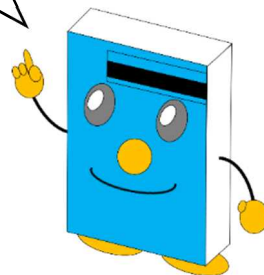


第3章

活用例編

第3章では、特別支援学校中学部と高等学園におけるツールの活用例を掲載しています。

ツールを活用したことで、学習活動にどのような変化(変容)が見られるのかご覧ください。



活用例①

第2章で紹介した事例を一つにまとめました

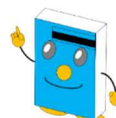
～各教科等を合わせた指導(生活単元学習) ある特別支援学校中学部の例～

ある特別支援学校中学部では、このような年間指導計画が作成されていました。
生徒の実態に合わせてStepに沿って調整・見直しをして、学習活動を設定していきましょう。

調整・見直し前の年間指導計画

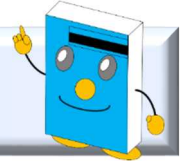
Step 1

年間指導計画等で必要事項を確認しましたか？



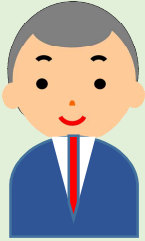
【指導の形態】 各教科等を合わせた指導 生活単元学習	【単元(題材)名】 買物に行こう	【時数】 7時間	
【指導の期間】 5月～6月	【学部・学年】 中学部2学年		
【単元(題材)の目標】 買物学習を通して、商品の買い方や選び方等を理解して買物ができる。〔知識及び技能〕 ・買物に関わる人に伝わるように表現を工夫することができる。〔思考力、判断力、表現力等〕 ・買物学習に見通しを持って取組み、学習に活用しようとする。「学びに向かう力、人間性等」			
【単元(題材)の計画】			
【時数】	【主な学習活動】(指導内容・方法)	【指導体制】	【各教科の目標及び内容】
1時間	1. オリエンテーション ・学習の目的及び内容について知る。	一斉指導	職業・家庭(家庭分野) C消費生活・環境ア(ア) (中学部1段階) 国語A聞くこと・話すこと エ(中学部2段階)
2時間	2. 買物の準備 ・生活に必要な物の選び方、買物の仕方について ・店員さんとのやり取りについて	一斉指導	
3時間	3. 買物(当日)	一斉指導	
1時間	4. 振り返り Step 2・4 「学んだことを生かしている姿」につなげる学習活動となっていますか？ Step 5 全員が十分に学べる集団の学習活動 になっていますか？	一斉指導	
		Step 3 各教科の目標及び内容(育成を目指す資質・能力)は生徒の実態に合っていますか？	

中学部2年1組の3人が買物(消費生活)の学習を行います。
それぞれこのような実態の生徒たちです。



生徒の実態

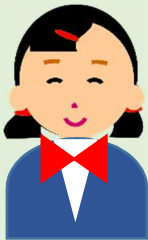
Aさん



(知的障害 ASD)

- ・ 学習場面において、教師と一緒に行動する必要がある。
- ・ 集団で行動することができるが、気持ちが落ち着かないことがある。
- ・ タブレット端末で動画を観ることが好き。
- ・ 商業施設等で買物をする経験が少ない。
- ・ 家族や身近な人には挨拶ができる。

Bさん



(知的障害 ASD)

- ・ 自立心は旺盛で、物事に意欲的に取り組める。
- ・ 絵を描いたり、音楽を聴いたりすることが好き。
- ・ 一人で家の近所にある自動販売機で好きな飲み物を購入することができる。
- ・ 家族と買物に行くことはあるが、一人で買物をした経験はない。
- ・ 日常会話はできるが、困った時に周囲に助けを求めることは難しい。

Cさん



(知的障害)

- ・ 身辺自立ができており、日常会話や簡単な読み書き計算ができる。
- ・ ゲームをすることが好き。
- ・ 一人で商業施設へ行き、買物をするすることができる。
- ・ 家庭ではごみ捨て等、家族の手伝いをしている。
- ・ 他者と関わる際の適切な距離の取り方や表現力を身に付ける必要がある。

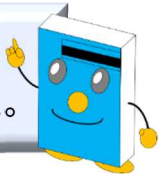
学習活動(指導内容・方法)設定シート

生徒たちの実態を踏まえ、学習活動(指導内容・方法)設定シートに記入してみました。



【指導の形態】 各教科等を合わせた指導 生活単元学習		【単元(題材)名】 買物に行こう		【時数】 7時間		
【指導の期間】 5月～6月		【学部・学年・学級】 中学部2年1組		Step 1		
個別に設定	氏名	【各教科の目標及び内容】 (育成を目指す資質・能力)	【学んだことを生かしている姿】	【場・人・もの】	【学習活動】 (指導内容・方法)	
	グループでも可	Step 3	Step 2	Step 4		
	A	・職業・家庭(家庭分野)C消費生活・環境ア(ア) (中学部1段階) ・国語A聞くこと・話すことエ (小学部2段階)	・目的に応じた店で、家族(支援者)と買物する。 ・商品やお釣の受け渡しができる。 ・店員と簡単なやり取りをする。 ・エコバックを持参して買物に行く。	場:目的に応じた店 人:店員,家族,支援者,友達 もの:紙幣・硬貨,財布,かご,レシート,エコバック	・教師と一緒に買物の一連の流れを、別教室に設置した仮想店舗でシミュレーションする。 ・本物の紙幣や硬貨の受け渡しをする。 ・「これください」「お願いします」「ありがとうございます」等、店員との簡単な受け答えの練習をする。 ・購入した商品をエコバックに入れる。	
	B	・職業・家庭(家庭分野)C消費生活・環境ア(ア) (中学部1段階) ・国語A聞くこと・話すことエ (中学部2段階)	・目的に応じた店で、自分で必要な商品を選び、買物する。 ・困ったことや質問があったときに、店員と適切にやり取りする。	場:目的に応じた店 人:店員,家族,支援者,友達 もの:紙幣・硬貨,財布,かご,店内表示,レシート	・必要な商品を選び、自分で購入する。 ・買物に必要な物を自分で準備する。 ・店員に伝わりやすいように、視線や適切な声の大きさ、速さで話す練習をする。	
C	・職業・家庭(家庭分野)C消費生活・環境ア(ア)イ(ア) (中学部2段階) ・国語A聞くこと・話すことエ (中学部2段階) ・数学A数と計算イ(ア)㊦ (中学部2段階)	・目的に応じた店で、自分一人で、必要な商品を選び、予算を考えて買物をする。 ・困ったことや質問があったときに、店員と適切にやり取りする。 ・資源回収やエコバックの使用など、環境について知る。	場:目的に応じた店 人:店員,家族,友達 もの:電卓,エコバック,メモ帳,プリペイドカード,レシート	・商品の選択や扱い方について知る。 ・店員に伝わりやすいように、表現を工夫する練習をする。 ・タブレット端末の電卓機能を使い、予算内で買物ができる学習をする。(プリペイドカードを知る) ・袋の有料化に伴うエコバック等について学習する。		
集団で設定	【主な学習活動】(指導内容・方法)				【指導体制】	【時数】
	Step 5					
	1. オリエンテーション	・学習の目的及び内容について知る。 ・袋の有料化に伴うエコバックの活用等について学習する。			一斉指導	1
	2. 買物練習①	・別教室に設置した仮想店舗で買物の流れを確認する。 ・個別の目標に応じた買物の仕方を確認、練習する。			一斉指導 個別指導	1
	買物練習②	・個別の課題に応じた学習活動を行う。 ・それぞれの練習成果を発表する。			一斉指導 個別指導	1
3. 買物(当日)	・学校の近隣の商業施設へ行き、買物をする。			一斉指導	3	
4. 振り返り	・授業を振り返り、学習の成果を発表する。			一斉指導	1	

年間指導計画等を生徒の実態に応じて見直した結果、次のような授業となりました。
「育成を目指す資質・能力」を児童生徒の生活に結び付ける学習活動が設定されました。



調整・見直し後の指導計画

【指導の形態】 各教科等を合わせた指導 生活単元学習		【単元(題材)名】 買物に行こう	【時数】 7時間
【指導の期間】 5月～6月		【学部・学年・学級】 中学部2年1組	
【単元(題材)の目標】 ・買物学習を通して、買物の一連の流れや商品の選び方等を理解して買物ができる。[知識及び技能] ・買物に関わる人に伝わるように表現を工夫することができる。[思考力、判断力、表現力等] ・買物学習に見通しを持って取り組み、学んだことを学習や買物当日に活用しようとする。「学びに向かう力、人間性等」			
【単元(題材)の計画】			
【時数】	【主な学習活動】(指導内容・方法)	【指導体制】	【各教科の目標及び内容】
1時間	1. オリエンテーション ・学習の目的及び内容について知る。 ・何を購入するか確認する。 ・袋の有料化に伴うエコバック等について学習する。	一斉指導	指導体制の調整・見直しがされています。 Step 5
2時間	2. 買物練習① ・別教室に設置した仮想店舗で買物の流れを全体で確認する。 ・個別の目標に応じた買物の仕方を確認、練習する。 買物練習② ・個別の課題に応じた学習活動を行う。 ・それぞれの練習成果を発表する。	一斉指導 個別指導 個別指導 一斉指導	職業・家庭(家庭分野) C消費生活・環境 ア(ア)(中学部1段階) (中学部2段階) イ(ア)(中学部2段階) 国語 A聞くこと・話すこと エ(小学部2段階) (中学部2段階) 数学 A数と計算 イ(ア)㊦ (中学部2段階)
3時間	3. 買物(当日) ・学校の近隣の商業施設へ行き、買物する。	一斉指導	
1時間	4. 振り返り ・授業を振り返り、学習の成果を発表する。	一斉指導	取り扱う各教科や段階の調整・見直しがされています。 Step 3
【単元(題材)の評価規準】 ・買物学習を通して、買物の一連の流れや商品の選び方等を理解して買物している。(知識・技能) ・買物に関わる人に伝わるように表現を工夫している。(思考・判断・表現) ・買物学習に見通しを持って取り組み、学んだことを学習や買物当日に活用しようとしている。(主体的に学習に取り組む態度)			

活用例②

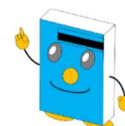
～教科別の指導(数学) ある高等学園の例～

ある高等学園では、このような年間指導計画が作成されていました。
生徒の実態に合わせてStepに沿って調整・見直しをして、学習活動を設定していきましょう。

調整・見直し前の年間指導計画

Step 1

年間指導計画等で必要事項を確認しましたか？



【指導の形態】 教科別の指導 数学	【単元(題材)名】 グラフを読み取ろう	【時数】 4時間
【指導の期間】 5月～6月	【学部・学年】 高等学園3学年	
【単元(題材)の目標】		
・数量の関係を割合で捉え、円グラフや帯グラフで表すことができる。[知識及び技能] ・データの特徴や傾向に着目し、問題を解決するために適切なグラフを選択して読み取ることができる。[思考力、判断力、表現力等] ・データの活用において、見通しを持ちながらデータを収集、グラフの選択をしようとする。[学びに向かう力、人間性等]		
【単元(題材)の計画】		
【時数】	【主な学習活動】(指導内容・方法)	【指導体制】 各教科の目標及び内容
1時間	1. オリエンテーション ・学習の目的及び内容について知る。	一斉指導 数学 Dデータの活用 高等部I段階
1時間	2. 様々なグラフについて知る。 ・簡単な表 ・棒グラフ ・折れ線グラフ ・円グラフ ・帯グラフ	一斉指導
2時間	3. それぞれのグラフを読み取る。	一斉指導

Step 2・4

「学んだことを生かしている姿」につながる学習活動となっていますか？

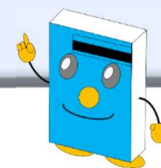
Step 3

各教科の目標及び内容(育成を目指す資質・能力)の段階は生徒の実態に合っていますか？

Step 5

全員が十分に学べる集団の学習活動になっていますか？

高等学園 3 年 5 組の6人が数学のデータの活用の学習を行います。
生徒の実態を基に、習熟度別にグループを編成しました。



生徒の実態

Iグループ



(知的障害 ASD)

- ・ タブレット端末や天気に興味がある。
- ・ 資料の数値を表で表したり読み取ったりすることができる。



(知的障害 ASD)

- ・ 情報誌やテレビなどに興味がある。
- ・ 資料の数値を表で表したり読み取ったりすることができる。

IIグループ



(知的障害)

- ・ 専門教科の家政が得意で、意欲的に取り組んでいる。
- ・ 棒グラフや折れ線グラフを表したり読み取ったりすることができる。



(知的障害)

- ・ 専門教科の農業が好きで、意欲的に取り組んでいる。
- ・ 棒グラフや折れ線グラフを表したり読み取ったりすることができる。

IIIグループ



(知的障害 ASD)

- ・ 自分の考えや気持ちを適切に話すことを自立活動の目標にしている。
- ・ グラフを表したり数値を読み取ったりすることができる。

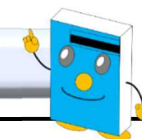


(知的障害)

- ・ 穏やかな性格で、周りに気配りをしながら多くの友人と適切に関わることができる。
- ・ グラフを表したり数値を読み取ったりすることができる。

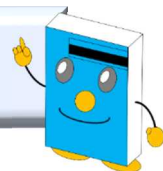
学習活動(指導内容・方法)設定シート

生徒たちの実態を踏まえ、学習活動(指導内容・方法)設定シートに記入してみました。



【指導の形態】		教科別の指導 数学		【単元(題材)名】	データを活用しよう	【時数】	4時間	
【指導の期間】		5月～6月		【学部・学年・学級】	高等学園3年5組	Step 1		
個別に設定	氏名	【各教科の目標及び内容】 (育成を目指す資質・能力)	【学んだことを生かしている姿】	【場・人・もの】	【学習活動】 (指導内容・方法)			
	グループでも可	Step 3	Step 2		Step 4			
	I グループ	・数学D データの活用 ア (中学部2段階)	・情報誌やテレビ等から情報を得る際に折れ線グラフを正しく読む。 ・インターネットで天候を調べ、適切な服装や持ち物を判断する。	場: 学校, 自宅 もの: 情報誌, テレビ, 折れ線グラフ, スマートフォン	・ペアで気温の変化をインターネットで調べた気温の変化を折れ線グラフで表し、最大値と最小値を示し、季節に応じた服装や持ち物を考察する。			
	II グループ	・数学D データの活用 ア (高等部1段階)	・販売会等における製品の中で売り上げの高いものを把握し、次の販売会の企画に生かす。	場: 販売会, 学園祭 人: 客 もの: 製品	・ペアで販売会での製品の売り上げを棒グラフや円グラフで表し、売り上げの傾向を考察する。			
	III グループ	・数学D データの活用 ア (高等部2段階)	・職場の資料や情報誌等の様々なグラフから情報を得ることができる。 ・友人と教え合ったり、調べたりしながらスマートフォンを使うことができる。	場: 職場, 自宅 人: 友人 もの: スマートフォン, グラフ	・ペアでアンケートを作成し、睡眠時間やスマートフォンを使用する時間を度数分布表で作成する。平均値, 最頻値, 中央値を求め、目的に応じてどの代表値を用いるかを話し合い、判断する。			
集団で設定	【主な学習活動】(指導内容・方法)					【指導体制】	【時数】	
	1. オリエンテーション					Step 5	一斉指導	1
	2. 各グループのテーマに沿って方法を話し合い、データを収集する。 I グループ: 月ごとの気温 II グループ: 製品の売れ筋 III グループ: 学園の生徒の平均睡眠時間, スマートフォンの利用時間						グループ指導	1
	3. 各自のタブレット端末でグラフの作成を行う。 I グループ: 折れ線グラフを作成し、最大値, 最小値を求める II グループ: 棒グラフ, 円グラフを作成し、平均値を求める III グループ: 度数分布表を作成し、平均値, 最頻値, 中央値を求める						グループ指導	1
	4. データを考察し、校内に掲示したり、配布したりする。 5. 振り返り					一斉指導	1	

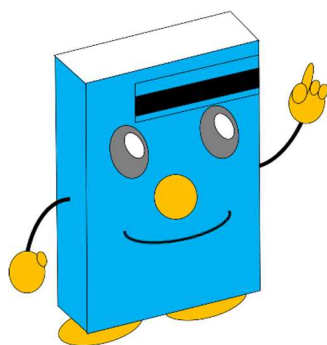
年間指導計画等を生徒の実態に応じて見直した結果、次のような授業となりました。
「育成を目指す資質・能力」を児童生徒の生活に結び付ける学習活動が設定されました。



調整・見直し後の指導計画

【指導の形態】 教科別の指導 数学	【単元(題材)名】 データを活用しよう	【時数】 4時間
【指導の期間】 5月～6月	【学部・学年・学級】 高等学園3年5組	
【単元(題材)の目標】		
・数量の関係を割合で捉え、グラフで表すことができる。〔知識及び技能〕 ・データの特徴や傾向に着目し、問題を解決するために適切なグラフを選択して読み取ることができる。 〔思考力、判断力、表現力等〕 データの活用において、友達と協力して見通しを持ちながらデータを収集、データを考察しようとする。 「学びに向かう力、人間性等」		
【単元(題材)の計画】		
【時数】	【主な学習活動】(指導内容・方法)	【指導体制】
1時間	1. オリエンテーション ※「With タブレ」を使用してグラフの作成方法を知る。 「場・人・ものマトリックス」を参考に高等部段階にふさわしいテーマを選んでいきます。	一斉指導
1時間	2. グループのテーマに沿って方法を決め、データを収集する。 Iグループ: 月ごとの気温 IIグループ: 製品の売れ筋 IIIグループ: 学年の生徒の平均睡眠時間 スマートフォンの利用時間	グループ指導
1時間	3. 各自タブレット端末を使用して、グラフの作成を行う。 Iグループ: 折れ線グラフを作成し、最大値、最小値を用いて天候に適した服装や持ち物を考察する IIグループ: 棒グラフ、円グラフを作成し、売り上げを考察する IIIグループ: 度数分布表を作成し、テーマに適した代表値を判断し、考察する	グループ指導
1時間	4. プリントして、校内に掲示したり、配布したりする。 5. 授業を振り返る。 生徒の実態に応じて、全員が十分に学べる学習活動に調整・見直しがされています。	
【単元(題材)の評価規準】		
・テーマに合わせてデータを収集し、グラフで表すことができる。(知識・技能) ・テーマに合わせて、問題を解決するために適切なグラフを選択してグラフを表すことができる。(思考・判断・表現) ・データの活用において、友達と協力して見通しを持ちながらデータを収集、グラフを考察し、問題を解決しようとしている。 (主体的に学習に取り組む態度)		

※「With タブレ」宮城県総合教育センター 令和4年度専門研究 教育の情報化グループ 研究成果物



宮城県総合教育センター

令和4年度 専門研究 特別支援教育研究グループ

みやぎ授業づくりガイド＋

発行年月 令和5年3月

編 集 宮城県総合教育センター

住 所 名取市美田園二丁目1番4号

電 話 022-784-3541